



令和4年(2022年)第19週 2022年5月9日(月)~2022年5月15日(日)

熊本市 感染症発生動向調査

速報

厚生労働省
「ダニ媒介感染症」



今週は重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の報告が1件ありました。重症熱性血小板減少症候群(SFTS)はSFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染するといわれ、予防策としてはマダニに咬まれないようにすることが重要です。特にマダニの活動が盛んな春から秋にかけては、野外で作業される際は気を付けましょう。



●重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)

●潜伏期間…5~14日 ●症状…発熱、消化器症状(食欲不振、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛)が出現します。時に頭痛、筋肉痛、神経症状(意識障害、けいれん、昏睡)、リンパ節腫脹、呼吸不全症状、出血症状(歯肉出血、紫斑、下血)が出現します。致命率は10~30%程度です。 ●治療…対症療法

◆予防法は？

●草むらや藪など、マダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖・長ズボン(シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる)、足を完全に覆う靴(サンダル等は避ける)、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、**肌の露出を少なくすること**が大事です。また、草の上に直接座ったり、寝転んだりせず、敷物を利用しましょう。脱いだ上着やタオルは不用意に地面や草の上に置かないようにしましょう。

服は、明るい色のもの(マダニなどを目視で確認しやすい)がお勧めです。虫除け剤の中には服の上から用いるタイプがあり、補助的な効果があると言われてしています。また、屋外活動後は入浴し、マダニに咬まれていないか確認して下さい。特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部(髪の毛の中)などが確認ポイントです。

また、SFTSはウイルスに感染した動物に咬まれて感染することがあります。体調不良の動物には特に咬まれないように気をつけ、ペットもマダニに咬まれないような対策を取りましょう。野生動物は、どのような病原体を保有しているかわかりませんので、野生動物との接触は避けてください。

◆マダニにかまれた場合は？

マダニの多くは、ヒトや動物の皮膚にしっかりと口器を突き刺し、長時間(数日から、長いものは10日間以上)吸血しますが、咬まれたことに気がつかない場合も多いと言われてしています。吸血中のマダニに気がついた際、無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させてしまったりするおそれがあるので、医療機関(皮膚科など)で処置(マダニの除去、洗浄など)をしてもらってください。

また、マダニなどに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受け、マダニなどに咬まれた可能性があることを伝えて下さい。

期 間		2022年 18週		2022年 19週	
		5/2~5/8		5/9~5/15(最新)	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ	➡	0	0.00	0	0.00
RSウイルス感染症	➡	1	0.06	0	0.00
咽頭結膜熱(プール熱)	➡	1	0.06	1	0.06
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	0	0.00	3	0.19
感染性胃腸炎	➡	62	3.88	94	5.88
水痘(みずぼうそう)	➡	2	0.13	0	0.00
手足口病	➡	1	0.06	1	0.06
伝染性紅斑(りんご病)	➡	1	0.06	0	0.00
突発性発しん	➡	23	1.44	13	0.81
ヘルパンギーナ	➡	0	0.00	0	0.00
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	➡	1	0.06	1	0.06
急性出血性結膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)	➡	3	0.60	3	0.60
細菌性髄膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎	➡	1	0.20	0	0.00
マイコプラズマ肺炎	➡	0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	➡	0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	0	0.00	0	0.00